

出席者 市教委（委） 宮島年夫教育長 二村圭史指導主事
知教労（組） 佐田京美 市野 司 堀口典宏

1 正確な在校時間の把握をしてください。

組 在校時間把握の「IEYASU」は一般企業向けの無料ソフトで、教育現場には向いていないので、教育現場に見合うソフトに替えて欲しい。
問題点①市内統一の管理なので勤務時間開始・終了時刻がどの学校も同じ。②休憩を取った設定にしてある。④出張などの時間把握もできない。⑤土日が打刻できない。⑥手直しをするには教頭に負担が多い。⑦手直しが正しくされているかの確認がされておらず、面倒な手直しがこの先もきちんとやれるのかも心配。

委 どのソフトを使っても、何かしら手直しの作業が残る。簡単に正確に計ることができる学校向けのソフトがあれば使いたい。

組 費用をつけて、支援員さんなど専門の方や堪能な方に作ってもらうことはできるのでは。

組 今のままでは、教委が出した数字、県に報告した数字が正確かどうか分からない。しかも、自分の在校時間の記録を見ることもできない。これでは職員の意識も高まらない。最低自分が月何時間オーバーしているかは知る必要がある。

委 今後検討する。

組 休憩時間が取れない状況が多々ある現実を、共通認識としてほしい。

委 休憩は最近はいろいろな形で取っている人もいる。休憩時間にはいろいろなことを入れないようにしましょうというスタンスである。

組 休憩が取れている人がいるのは極まれな状況。本来休憩は一斉に取ることになっている。しかし、休憩時間の間子どもたちを見る人はいない。だから、法律上は休憩を取らなければならないことになっているが、現実的には金も人もなく、つまり体制が備されていないので、取れないことの方が多い。これを共通の認識にすべきだ。県教委も、文科省も認めている。

委 話は聞いておく。（共通認識にならず）

組 未だその認識かと、非常に残念だ。

2 残業上限45時間、年360時間を遵守するための具体的な策を検討してください。

組 小学校の部活（課外）廃止については、

委 期限は示せないが、無くなっていく方向にある。

組 中学校の朝部活の廃止については、

委 教育委員会と校長会で検討中である。そういう意向があることは否定しない。朝部は市単位で決定していく。

組 中学校の最長下校時刻を17:30にすることについては、

委 これも検討中である。

組 教職員会等、任意団体の仕事こそ真っ先にはずすべきと考えるがいかが。

委 即答はできない。学校の出張は縮減の方向である。

委 「知多の友」「数学のリープ」など、任意団体の冊子の編集に、教員は補欠を出して授業中に行っている。編集作業を伴う任意団体の仕事を切るべき。会費を出して、仕事が増えるのはおかしい。

委 教職員会への要望は教職員会へ出してほしい。聞いておくにとどめる。

組 教職員会の会長は校長なので、教育委員会としても業務削減の指導をしてほしい。

組 教頭・教務・校務は、授業をやる定数内の教員なので、TTだけなどでなく、成績を出す授業をもう少ししてほしい。そうすれば、他の人の空き時間がふえ、勤務時間内に仕事はかどる。教員外で、校務を専門にする校務員を雇用してほしい。

委 それぞれの役割の仕事はある。

組 読書感想文を市立の宿題にしないでほしい。担当者は辞められないと言っているが。知多半島内でも自由応募になっている自治体もある。

委 判断は学校にある。

3 校務・教務の異動について特別扱いしないでください。

組 昨年度は、知教協事務局の責任者の立場だった宮島先生には話をした。他の教諭に先んじて校務・教務の人事を先に決めることは、根拠がないことは認めた。異動者カードも他の教諭と同じよう

に書くことと合わせて、知教協に伝えてほしい。

委 伝える。

組 校務・教務はすでに4月1日に辞令を出されているが、それはそれまでに決まっていることを示す。それは特別扱いで、おかしい。やめるべきだ。

委 お聞きしておく。

4 各校にICT支援員・GIGAスクールサポーターを常駐させてください。

委 大府市は支援員を早くから配置し、GIGAスクール構想の中でもサポーター（兼支援員）も追加した。今後も現場の声に耳を傾ける。

組 「現場の声」というが、私たちはあまり聞かれたことがない。システム部として毎日いてほしい。数百台の機械が動いているので、独立した専門の部署が必要である。

委 支援員さんは技術的な支援だが、教育的なところで生かしていくということで、教育委員会としてGIGAスクールの教育指導員を入れ、各学校を回っている。

5 再任用ハーフ2人による2人学級担任はしないでください。

委 ハーフ2人による学級担任は、校長もしたくないと思っているし、教育委員会も同感である。

6 学校訪問を縮小してください。

委 現時点ではコロナ対応は十分とやっている。学校訪問の縮小は考えていない。

組 指導案の縮小や、特設を無くしていったりしてほしい。指導案A4サイズ1枚はすでに東浦や常滑でもやっており、そのことで教員の質を下げているということはない。

委 単元構成やどこで評価を取るかなど、きちんと考える機会になる。A4サイズ2枚にまとめていくことによって、授業の質を上げていくと考える。

組 授業の構成は普段から考えており、授業は1枚の指導案でも進めることができる。学校訪問の授業は「見せ場」のある授業をしている場合がある。授業を視察を否定はしないが、普段の姿を見る方法を考えてほしい。

組 学校訪問で多忙化解消のチェックをすることになっているが、知教協のつくる学校訪問要項は昨年と同じものだ。きちんと盛り込むよう伝えて欲

しい。他の教育委員会にも伝える。

委 伝える。

7 是非を振り返って下さい。

組 「体力向上プログラム」ということで、教委の指導の下、5月のもうすぐ緊急事態宣言が出そうな時期に、小学校でマスクをつけたまま90分間体操をする研修が行なわれた。この時期にこれが必要だったのか。「体力向上」を謳うのであれば体育専科を今後配置するとか、考えて欲しい。

委 運用の仕方を考える。低学年で丸1時間指導してくれる指導員を配置し、子どもたちの気持ちになって考えてみましょうという研修だった。

組 「せっかくタブレットを導入したが、先生方の喜びの声が聞こえてこない」との主事の話があった。国策としてやるもので、こちらが喜ぶものではない。毎週の利用調査も仕事が増えた。

組 コロナワクチンの摂取済みかどうかの調査が急にあった。生徒に調べてはいけないといいながら教員には調べていた。いかがなものか。

委 ワクチンを打ちたくても打てない先生がどれだけいるか、大府市が保障してくれるということで調べた。緊急を要したので、決して打った先生をあぶり出したわけではない。申し訳なかった。

組 ワクチンを打ちたい人は誰でも見れるエクセル共有ファイルに名前と生年月日、電話番号の個人情報を入れていくという指示は不適切だ。

委 キャンセル枠が出た時に、担当部署から直接連絡が入るため必要であった（本人了承）。

組 「ゆかり道徳」を必ず年間計画に入れるようにとの指導が主事からあったがいかがなものか。

委 ぜひやっていただきたいというスタンスだ。

組 必ずという強い指導ではないということを修正していただきたい。

委 確認する。

8 全ての特別教室にエアコンを設置してください。

委 努力は重ねている。順次、特別教室にもエアコンを設置してきている。

以上